

1 自己評価

学校教育目標		個性を伸ばし、進んで心身を鍛え、たくましく生きる生徒の育成			
研究主題		学力を高めるための学習環境づくりの推進			
項目	重点目標	取組	成果・課題	評定	改善策
学力向上	分かる授業の推進と基礎学力の定着により生徒の学力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 「久礼中授業のスタンダード」の作成とそれに基づいた授業実践を行う。 授業の工夫改善に向けた公開授業(全教員1回)及び全教職員参加の授業研(各学期1回)を実施する。 授業評価アンケート(各学期1回)を実施し、結果を共有する。 基礎学力及び家庭学習の定着に向け、毎日の久礼ノートの提出を全校で取り組む。 放課後の補充学習や長期休業中の加力指導を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業での協議・授業評価(参観者)や授業評価アンケート(生徒)結果によって、授業改善への方策や校内研の方向性を確認できた。 「久礼ノート」の提出率を向上させるための専門委員会活動や各学級での取り組みによって、個人・学級の意識が高まり提出率がアップしてきている。 学習をあきらめかけている一部の生徒が授業に集中できず、学力差が広がる結果となり、手立てが必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「授業のスタンダード」の徹底を図る。公開授業や授業研は継続し、講師招聘などで改善策を検討していく。 「久礼ノート」だけでなく、授業での課題や個人で家庭学習に取り組みさせる「家庭学習ノート」に取り組みさせる。ノート指導が必要。 中土佐検定問題を家庭学習に活用させていく。 加力指導や補充学習を継続していく。
生徒指導	全ての生徒が豊かな学校生活を送ることができる教育環境を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の「学校生活アンケート」やQ-U(2回)の実施・分析・共有を行い、生徒の状況を全教職員で把握し、早期対応に努める。 支援の必要な生徒に対しては、支援会を開催し、SCや関係機関と連携しながら対応していく。必要に応じて積極的な家庭訪問を実施し保護者との信頼関係を構築する。 運営委員会や職員会等において情報交換を毎回実施し、情報の共有と対応策を共有し取り組む。 全教職員で、協力して対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒は、各学年1名いる。不登校傾向の生徒も少なくない。自尊感情を高める教育活動と、共感的な人間関係が構築された学級づくりを推進する必要がある。 やればできると思って何事にも取り組みうとする生徒を育成していくために、居場所と出番を与え、成功体験や役立っ喜びと賞賛・感謝の声をたくさん浴びせる工夫が必要である。 学校生活アンケートで「学校が楽しい」と答えた生徒が増えている。 職員会や校内研修において、生徒の現状と課題、対応策について議題に乗せ、全教職員で共通理解を深めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 共感的な人間関係づくりと安心、安全な学級づくりに取り組み。悪い言動を指導すると共に、良い言動を紹介し、より良い生き方や考えて方の見本をたくさん与える。 生徒が主体的に活動できるように、更に生徒会活動を充実させていく。 生徒指導体制を見直し、生徒理解を深め、きめ細やかな指導を目指す。
学校・家庭・地域の連携	地域で子どもを育てる教育環境づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事や総合的な学習等において、地域の力を活用した学習活動を充実させていく。 地域の行事や活動に積極的に参加し、協力していく。 生活リズムチェックカードの活用や、三者面談を各学期一回行い、保護者の意識を高める。 校長便りやコミュニティスクールだより(毎月1回)を発行し、生徒や学校の状況を保護者や地域に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援地域コーディネーターが調整役となつて、地域の力を借りた学習活動や地域の行事に協力することができた。 行事が多く多忙となつたため、精選していく必要がある。 生活リズムチェックカードの調査の結果、生活リズムに課題のある生徒が昨年より増えた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加や地域の力を借りた学習活動を精選していく。実施時期や実施内容の見直しを図る。 積極的な情報発信により家庭や地域からの学校理解を深め、協力してもらいやすい環境を整備すると同時に啓発していく。 保護者が学校行事(参観日・研修会等)に積極的に参加できる手立てを考える。
学校の独自項目1	協力して取り組む学校をめざし、全校的な取り組みを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝のあいさつ運動や小中合同のあいさつ運動を生徒会を中心に、全校生徒・全教員が輪番制で行う。 朝読書の取組や中土佐検定の取組を全校体制で行う。 「久礼中授業のスタンダード」を意識した授業改善に全教職員で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動は、生徒会が中心となつて、計画的に全校で取組ことができ、小学校との連携もできた。 朝読書、中土佐検定の取組を全教員で協力してでき、生徒の意識も高まってきている。昨年以上の合格率だが、全員合格までには至らなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 共感的な人間関係づくりと安心、安全な学級づくりに取り組み。悪い言動を指導すると共に、良い言動を紹介し、より良い生き方や考えて方の見本をたくさん与える。 生徒が主体的に活動できるように、更に生徒会活動を充実させていく。 生徒指導体制を見直し、生徒理解を深め、きめ細やかな指導を目指す。
学校の独自項目2	○生徒の自尊感情を高める。生徒の個性を発揮させる場として、学校行事を充実させ、生徒会活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭や文化発表会では、実行委員会方式で、運営と縦割り編制で集団を高める。 学校・学年行事や授業において、生徒の創造性・自主性を育てる場を設ける。そのためにそれぞれの生徒の居場所と出番を作り、活動させ、成功体験を与える。さらに、周りからの感謝と賞賛の声をあびせ、自尊感情の高まりを目指す。 各種コンクールなどに積極的に参加する。 専門委員会活動を「見える化」し、各委員会が取り組む内容と状況を共通理解して実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種行事は生徒会や3年生が中心となつて、リーダーシップを発揮し、盛り上がるのができた。 生徒同士の相互評価(肯定的)とその内容を掲示したり便りで紹介することができた。 学校・学年等の活動や取組において、自主性を引き出す手立てを積極的に取り入れて行うことができた。 コンクールや検定等で特別賞や入賞をすることができた。 各専門委員会が取り組む内容を集会で発表し、取り組み結果も報告しているが、盛り上がり欠ける。各委員会活動が何について取り組んでいて全生徒が意識できるような手立てが必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加や地域の力を借りた学習活動を精選していく。実施時期や実施内容の見直しを図る。 積極的な情報発信により家庭や地域からの学校理解を深め、協力してもらいやすい環境を整備すると同時に啓発していく。 保護者が学校行事(参観日・研修会等)に積極的に参加できる手立てを考える。

(A：目標を上回った B：ほぼ目標どおり C：目標を達成できなかった)

2 学校関係者評価

学校関係者評価	講評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	<p>久礼中学校の生徒は、落ち着いた状態で学校生活を送れている。特に、今年度は、自転車置き場の整理整頓ができるようになり、警察の方より、「中学生の自転車の乗り方についての注意回数が減ってきている。」と評価されるなど、一定の成果が見られていると思うが、学校に登校していない生徒や生活リズムに問題のある生徒など地域と一緒に取組んでいかなければならない問題もある。テレビやSNS、ゲーム等で睡眠時間が不足し、朝から眠い状態で登校している現状や自動車で送り迎えをする家庭の増加など具体的な課題が見えているが、それぞれの家庭への啓発を考えたら、学校だけで取り組むのは不可能である。子どもや学校の課題が家庭や地域の話題となり、みんなで取り組んでいくことが大切になるので、まず、学校と地域がつながる具体的な方策をとってほしい。</p>		
		B	<p>子どもの可能性を伸ばすために、生活リズムや自立に向けた支援は大変重要です。家庭や地域と学校が一体となって取り組めるように以下の改善をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と共に行う行事等については、年度当初から地域の方々に関わってもらって準備等をしていく。 ・学校が行っている情報発信が、地域に届くように発信回数を増やし、発信方法を工夫していく。